

安曇野日和



連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

「いよいよ私たちの生活は変わるのか」令和2年1月に国内で初の感染者を確認してから3年以上が経過しましたが、新型コロナウイルス感染症に関して、これまでとは質の違った新しい動きが見られるようになっていきます。

去る3月13日にはマスクの着用に関して「推奨」から「個人の判断」に委ねられるようになりました。私たち医療関係者はまだまだ手放すことはできませんが、屋外ではこれまで以上にマスクをしていない人を見ることになるでしょう。そして大きな動きとしては5月8日をめどに感染症法上で現在の2類相当から5類（季節性インフルエンザと同等）に変えていくと政府は発表しています。類型を変えるだけで感染者が減るわけではありませんが、この新興感染症をワクチン接種や治療薬によってある程度コントロールできるようになってきた、また感染力は強いものの致死率や重症化は明らかに低下している、という2点はこの判断の要素としては大きいと思われま

す。過去に猛威を振るったペストやスペイン風邪も数年の経過で大流行は収まっているという歴史的事実もあります。休日に街を歩けば海外からの旅行者も確実に増えてきていますし、誰もがちょっと出かけてみたいと思う気持ちが湧いてきているのではないのでしょうか。

観光や飲食業界は特に大きな影響を受けた数年間でしたが、ここからまた活気のある日常を取り戻していけるのではないかと考えるようになってきました。

表紙写真 写真タイトル：「美ヶ原とミサトピア小倉病院」 撮影者：樋口 孝

当院（標高678m）から1kmほどのところにある室山（標高792m）の山頂の展望台から、残雪の残る美ヶ原高原を背景にして撮影しました。

クリスマス会①



12月21日にクリスマス会を行いました。新型コロナウイルスの影響もあり、各病棟ごとの開催となりました。今年は歌をテーマにクリスマス会を行いました。

患者さんの発表では、好きな歌についてエピソードの発表やCDを流したりカラオケ演奏で歌ったり、それぞれの方法で発表を行いました。クラシック、演歌、ポップスなど様々なジャンルの歌が発表され、個性豊かな発表となりました。

グループ発表では、5人程のグループで紙芝居の発表を行いました。発表する紙芝居についても、クリスマスに関連した紙芝居の中からグループ内で話し合い選びました。個人OTや、空いている時間を使いグループで集まって繰り返し読む練習を行い、本番に臨みました。緊張した様子もありましたが、「また来年もやりたい」「緊張したけど上手く出来た」等の声が聞かれ、いい思い出になった患者さんもいらっしゃいました。



クリスマス会②



患者さんの発表以外にも、職員の発表で落語、ダンス、歌などの発表がありました。

院長先生からも歌の発表をしていただきました。直接の発表ではなく、録画による発表でしたが患者さんは、診察の時とは違う院長先生の歌に聞き入っている様子でした。

病棟スタッフの発表については、バンドを組んでの演奏や歌やダンスの発表など、病棟ごとに個性が出ており患者さんも手拍子をしたり、一緒に歌を口ずさまれたり楽しんでいる様子でした。生演奏や歌は好評で患者さんからは、「素敵な演奏だった」「楽しい時間を過ごせた」等の感想が聞かれました。

今後も、新型コロナウイルスの状況を考えながらも、患者さんにとって特別な時間となるように病院行事を考えていきます。



節分レク

1-1病棟では、2月に節分にちなんだ射的ゲーム大会を行いました。

午前中、患者さんと一緒に「ショコラブリュレ」を作り、一緒におやつ作りをした患者さんは真剣な様子で説明を聞き、手際よく作っていただきました。甘く、食べやすいデザートは「美味しいね」と大好評でした。

ゲームは「冬を吹き飛ばす」意味で、的は冬にちなんだもので、射的を使い鬼の的を倒すゲームで、30名ほどの患者さんが参加しました。病棟のスタッフと協力して鬼を狙って射的を行っており、普段とは違う真剣な表情に驚く職員も多かったです。中には壁で跳ね返る的を倒すハプニングもあり、会場中が笑いに包まれました。「もっといい線行くと考えたのに」とゲーム後、悔しがる患者さんもいらっしゃいました。入賞者の患者さんには、賞状が授与されとてもうれしそうな表情が見られました。



カラオケ大会



2-2病棟では、3月にカラオケ大会が行われました。患者さんに1曲歌う歌を決めていただき、カラオケの採点機能を使って採点を行いました。カラオケ大会で歌う歌については、事前に歌う歌を決めておりカラオケのプログラムの時間を使って練習をしている患者さんもあり、楽しみにしてくださっている方も多い様子でした。

3位までの入賞者の患者さんは表彰させて

いただき、表彰された患者さんはとても嬉しそうな様子でした。

その後、病棟スタッフの歌の発表がありました。ギター演奏もあり、患者さんたちは手拍子をしながら笑顔で過ごされていました。その日の、おやつには甘酒を飲みました。懐かしい味に「家で飲んだのと同じ味だ」など好評でした。



令和5年新年式



1月4日に当院の大会議室にて、感染対策に配慮した上で関総長と桑村院長が、新年の挨拶をされました。

併せて日本精神科病院協会より、30年勤続の永年勤続表彰が行なわれました。



防火防災訓練

1月18日に防火防災訓練が行われました。今回は夜間の火災を想定しており、夜間の少ない職員数でいかに迅速に避難誘導するかが課題となっています。有事の際安全に患者さんおよび職員の身を守るべく、火元と避難経路の関係や人員の体制・役割などが訓練後に院内の委員会にて検討され、毎回の訓練に活かされています。



長野県精神科病院協会研修

第56回となる長野県精神科病院協会の職員研修会が、2月18日にオンラインにて開催されました。今回は『医療における連携』を主軸とした構成になっており、当院からは「入院時の薬剤部のかかわりについて」が報告されました。10例の事例報告、ミニシンポジウムが行われたのち、Covid-19に関する報告、双極性障害の最新知見の講演が行われ、知識を当院の医療に還元できる、充実した学びの機会となりました。

病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 医療介護福祉の連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟200床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103
長野県安曇野市三郷小倉6086-2
TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団
ミサトピア小倉病院

城西医療財団HP www.shironishi.or.jp

編集後記

安曇野日和39号をお届けします。院長室だよりも述べられていますが、長らく続いていたコロナウイルス対策関連が大きく転換しようとしています。高齢で基礎疾患のある方も多い当院では、その転換の波は慎重に、徐々に進んでいくと考えられます。この先もしばらく外部から院内に立ち入りにくい状況下で、院内の様子を発信できる広報紙の意義は大きいと感じます。間接的ではありますが大切なご家族の様子を紙面を通じて感じていただき、安心の一助となれば幸いです。